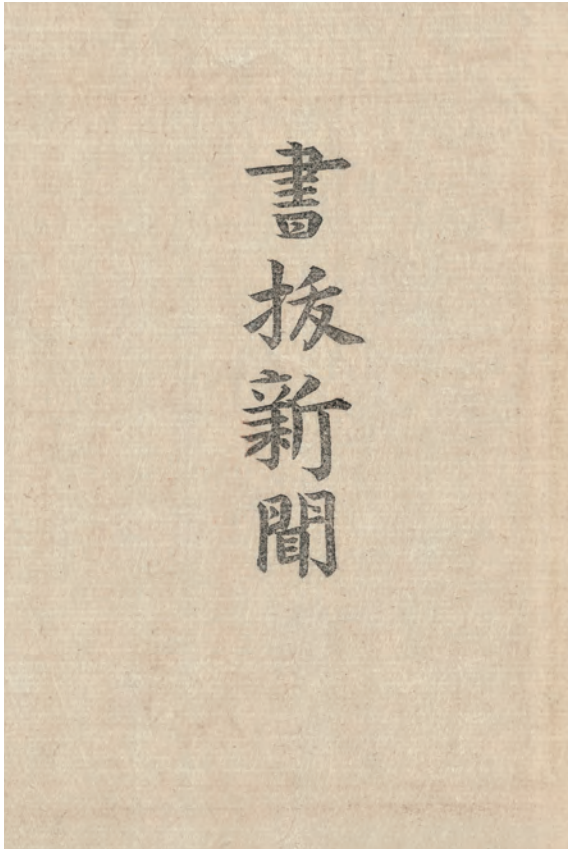


書拔新聞 第1号～15号

明治六年十二月～明治七年四月

復刊版



群馬地域文化振興会

明治六年十二月

書拔新聞

定價三錢

第一號



緒言

此書按新聞ハ御布告御布達ハ勿論諸新聞中
民情ニ適實ノ要件ヲ拔萃記載シ其他孝子貞
婦ハ更ナリ隣邦各區ノ珍說奇談ニ到ル迄之
ヲ實際上ニ取捨シ總テ各自人民ノ心得ニ十
ルヘキヲハ童蒙婦女子ニモ解シ易キヲ至ト
シ活利致候間世道ニ裨益トナルヘキヲハ必
ス本局ヘ忠告アラントシ

誠之堂謹誌

書拔新聞第一號

熊谷縣御達

番外

用水路の費用を省き田を變ハタケて圃ハタケとなすへき議

○抑我國一般人民の食物たる米穀を以て第一とす故に政府

は於ても厚く爰に注意し稲田を減ヘラレ減ヘラレせることを嚴制し隨キビシクトメて

用水入堰セキの修築費用ツクルヒの如きも官民相共し專盡力強て圃ハタケを變

じて田となし術の得たるものとするも時態適當トヤヨの施行護保コトアタルレナレタマフ

の然るへきものなるへし然るよ方今イマの形勢フリに至り未だ其實

偏ねアマチからすと雖イエトセ人身スニヤカの健康クモチを保持クモチするよ於ける肉食ニクシキよ非れ

は最上ホボの良品レトルとなすへからざるわ粗人民クニの覺知クニする所是國

歩進昇フリススミノホルの一事カハリキヤレよして食物一變アラの機既アラよ見はれ是よ於てか新

舊時勢ムカシトキヨの沿革ウツリカハリハカを圖り速スミヤカよ前途ユクサキの方向オホオヒボシトウを定め漸次ウエカタ適實ウエカタの植藝

を勵ハケまゝフカキへき深重フカキの御趣意ハケよも可有ハケ之先般勝手ハケ作免許ハケの

御布令シカノミアラズあり加之ハケ今般用水堰ハケの如きわ格別ハケ不得已ハケの事故ハケある

に非ハケされハ自今カミノイリメ官費賜ナラハレはらざる旨御改正ヨ有之依ヨて舊慣ヨよ因ヨ

循リ稻田養水ケシツコシナンの爲ミツよ嶮岨ミツ困難ミツの地ミツよ溝渠ミツを設け或ミツいハ原水ミツを

遙々ハカカの大川アラタカヒクよ仰クニリマカリき高低ハカカ屈曲ハカカ百計ハカカを盡ハカカし僅々ハカカの田丁タカマシ歩タカマシを耕耘タカマシ

するも其勞役ホチオリハ勿論亦費用の大なる動ヤヤもすれハ得失相償ツクノは

も民力の堪タふべからざる事あらむ況イッむや凶年等イ於けるを

や案アをるよ當地方の如きハ天幸クツハタよして梨園カナイ又適イ一自然其實

も不拙ウケナラフ今更傳習等ウケナラフの苦勞なく故イ又偏マイマイ從前用水路の費用を

省略ハツクをるを旨ウケと一其土質ウキノナリの當否地形の利害得失ヨクハカリを熟慮ヨクハカリ一断

然從前の習慣ナラハレを破り速ナラハレ又田を變ナラハレして園ナラハレとなく

皇國第一カイクの養蠶フトを勉ナカめ以て霖雨ナカ大旱ナカ洪水ナカの如き天然免るべ

からざるの災害ワセワイも亦敢て人事ワセワイ及ぶことなからワセワイ一むへき旨

本日常例の大區會席ワセワイ於て議定候條此旨相達候事


明治六年十二月三日

熊谷縣令河瀬秀治

ウサギ

免賣買稅東京府より御布告相成りに依らせられ本廳に於て

も來る明治七年一月より免ウサギ一羽ニ付月々一圓之稅金納むべ

く無届にて所持の者ハ  貳圓の過怠料仰せ付らる可き旨

御達あり兼て此程東京日々新聞を見よ神田明神の前にて

草鞋ソラジを買ひ下駄イナカはき換へ中仙道をさして免を持出せよ二

人の者あり是ハ田舎イナカの未だ御布達有らざる地の者を欺き禍

を賣らむとの結構なり由其他奸商ワルモノの忍ひくのひに猶ソレを爲

さむとする者尚いくさくも有るべけれハ後の此事を知る者
殊^{キツツケ}は御布達^{キツツケ}は注意して禍^{カカ}に罹らざる様こそ有らま不^レけれ
○縣下北第十大區小一區東明屋村龍門寺住職吉美候部道鳩
なる者學校獻金のことニ付同村副戸長某を経て差出された
る^{カッ}至意^{カッ}は我嘗て雜史^{ケミ}を閱るに

仁明天皇之御宇衣縫金繼の女少^{カッ}よして父^{ウシナ}を喪^{ヒトリ}ひ獨り母と居
る曾^{カッ}て父の追善供養の爲年々川^{カッ}は橋して人を渡ると又近日
報知新聞を閱るに陸前の農某祖母養母の佛事に代て石橋
を架し以て道路の便は供もと夫古今何を事の同トきや我深

く爰ヒロ又感あり方今維新更張大ひに人材を養ひ智識を擴めむ
が爲各卿區學を設くるの舉コトあり苟イヤシムも志あらむ者誰タレか力を盡ツク
さ、らむや吾不肖といへとも國恩コクオンは浴ヨクもるの忝カタジケナキを知ればい
かで資シを投シて志を伸ノベむともるも唾力の足ざるを歎息ナゲキもる
のみ然るコトシよ今茲吾寺先住某和尚十七回忌の辰トシ又當れり固よ
り法孫たる者佛事供養せすむもあるべからず然りと雖カレトも彼
此コレト兩用の財ツカラに乏トホきハ貧道の常態なれば寧ムシロ二子の爲す所ナラ
倣ナラひ目今二十五圓の金を以て之を學校シヨウガクに獻コトし暫く追遠の情
又背ソムくも現アラハに活資イカスの計を急イサよせむとす且時俗動もそれヲを窮

之を名として美事を廢るるの弊あり何ぞ時俗の陋習又因循
もべけむやと云々

附して曰喜美候部氏ハ其奉る佛學又通曉せるよりハ

更にも言はを廣く古今の形勢又着目し今也維新の運ヨ

會アフもるを喜ひ學校建設の功を稱タスけむとして其先靈供養

の資を轉モトして學校に獻せられしハ亦謂財を活イカせしむる

此トキコならも時運又乘して又才をも活用ハタラカせる人と言べき

か

○縣下北第五大區小二區戸長高崎新町岡田源平此父孫六な

る者今年九十の齡ヨハヒを過れども身體殊コラダ又健ゴヤカよいて能家の事コト又
周旋カケヤハリ一カクギ所謂モツハむかゝ堅氣ケムツにて専ら儉素を事コトと一イヤシク近隣オゴリ苟オゴリも奢侈
よ及セムむむとモテもる者あれば之を責ヤコトるに實情モテテを以フヒケイて更フヒケイも浮靡輕
薄ハクの風なく家族カマド菴屋ツキを以て業ウツメとせるが多くハ飯ムダを炊ハフに至り
てハ身カマド自らツキ龜下ウツメに就ムダて火を焚ハフき勤ムダて薪木ムダの冗ムダを省ハフき煮ムダて炊
飯ムシの適宜ヨキホドを注意キラツケ一アケガタ毎日拂曉アケガタに起出ムシて家内モノグサキの懶惰イマシメを懲戒シサ一シサ施
て近隣モノグサキに及イマシメふと事シサかくの如シサくなるやへ家次第シサ又富シサみて既シサも
當シサ四月中居シサ町シサ又石橋シサを架カケを於シサ此際シサ百五十圓シサの金シサを出シサて道路
の便シサを計シサり自ら長壽シサを祝シサを於シサの意シサを表シサされ一シサなど最人々シサの